

令和8年度（2026年度）

国民の^も森^り林へようこそ



持続可能な林業の取組（複層伐）



網走西部森林管理署

管理経営の基本は**公益的機能の発揮**です

網走西部森林管理署は、網走・湧別川広域流域のうちオホーツク総合振興局管内の主に湧別川流域の遠軽町及び湧別町に所在する「国民の森林」である国有林を管轄しており、その面積は、約10万ha（エスコンフィールドHOKKAIDOの約2万個分に相当）に及びます。

また、管内の森林は、地域の主要河川である湧別川とその支流の武利川や生田原川及び湧別町の芭露川の水源地域となっており、森林面積の約9割が水源涵養や土砂の流出防備等を目的とした保安林に指定されています。

このように、地域の水源として生活用水をはじめ、基幹産業である農業及び水産業の振興、洪水や濁水を緩和し、土砂の流出・崩壊等による山地災害を防止するための森林の整備や保全に対する国民からの期待が高まっていることから、公益的機能の発揮と森林資源の循環利用を図るため、適切な管理・経営に努めています。



機能類型にふさわしい 森林の取扱いを進めています

網走西部森林管理署では、公益を重視し、国自らが責任を持って一元的に管理経営するため、森林の重視すべき機能に応じて「山地災害防止タイプ」、「自然維持タイプ」、「森林空間利用タイプ」、「水源涵養タイプ」の4つの機能類型に区分し、各機能の発揮を目的とした管理経営に努めています。

機能類型区分

森林施業の考え方

面積

山地災害防止タイプ

山地災害の防止や土壌保全の機能を第一とする森林

木の根や表土の保全、下層植生の発達した森林の維持

35,100ha (33%)

自然維持タイプ

原生的な森林生態系や希少な生物が生育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を第一とする森林

良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育や生息に適した森林の維持

4,600ha (4%)

森林空間利用タイプ

保健、レクリエーション、文化機能の発揮を第一とする森林

保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林の維持と造成

500ha (1%)

水源涵養タイプ

良質な水の安定供給など水源の涵養機能の発揮を第一とする森林

広葉樹の導入による育成複層林への誘導等を推進し、森林資源の有効活用にも配慮

66,000ha (62%)

管内国有林合計面積 106,200ha

令和8年度の取組

「森の国・木の街」の実現に向けて

網走西部流域は、森林資源の循環利用を進め、森林・林業・木材産業の好循環による「森の国・木の街」の実現に向け、民有林・国有林の林業関係者が一丸となって取り組んでいます。

網走西部森林管理署では、地域での役割を踏まえ次の取組を進めてきました。

○トドマツ育苗期間短縮苗木の成長調査

トドマツの育苗期間は裸苗で5年、コンテナ苗で4年程度の期間を要する為、伐採面積の増減による植付面積の急激な変化に対応ができず、そのため苗木の供給不足等が発生しています。

育苗期間を短縮することで、苗木供給の変動に対応することや生産コストが削減が可能となると考え、緩効性肥料を用い育苗期間を2年に短縮したコンテナ苗と従来の4年生コンテナ苗を同じ小班内に令和5年6月に植栽し、令和5年10月、また令和6年以降も成長状況を調査していくことにしました。

令和7年10月の調査結果でわかったことは、残存率は育苗期間を短縮した苗木の方が従来の苗木より3%程度上回り、平均根元径についても8%上回りました。結果、3年目においても短縮苗の成長状況は従来苗と比べ劣ってはいませんでした。

トドマツ育苗期間短縮苗木と従来苗木の結果

植栽年月日 令和5年6月

短縮苗木6種 * 50本の300本、従来苗木50本を植栽を今後継続調査

規格 (コンテナ苗)	調査本数			平均苗長(cm)			平均根元径(mm)		
	R5.6	R7.10	残存率	R5.6	R7.10	成長率	R5.6	R7.10	成長率
短縮苗	300	238	79.3%	39.2	52.5	134%	7.5	12.7	169%
従来苗	50	38	76%	32.0	53.3	167%	8.0	12.9	161%

○遠軽地区森林整備推進協定の着実な推進

遠軽町、遠軽地区森林組合及び網走西部森林管理署の3者は、民有林・国有林の整備を効率的かつ円滑に進めるための「遠軽地区森林整備推進協定」を締結しています。

令和7年度は、協定者間で昨年に引き続き広葉樹の勉強会、新しい林業の勉強会及び遠軽町林務課の業務と森林組合の仕事等について勉強会を行い、相互の理解を図りました。



広葉樹勉強会の様子(令和7年9月)



新しい林業勉強会の様子(令和7年11月)

公益的機能の発揮と森林資源の循環利用 のためにさまざまな**取組**を進めています

保安林の整備

土砂の流出・崩壊の防備や水源の涵養が特に求められる森林(管内国有林の約9割)を「保安林」に指定し、良好な森林に整備しています。

これらの保安林内では、災害を防止するため、土砂の流出防止、崩壊地の植生を回復させる「治山事業」を実施しています。



施工前の現地(遠軽町)(令和7年5月)



施工後の床固工(遠軽町)(令和7年11月)

※左の写真と同一個所です(撮影角度が違うため空が見えない)

森林の整備と木材の安定供給

再生可能な資源である木材を循環的に利用するため、自然条件等を勘案しながら、伐採と植林を繰り返して、良質な木材を持続的、安定的に供給するよう努めています。



下刈を実施し植栽木の成長を促進(遠軽町)



循環利用のために集積された木材(遠軽町)

流域を単位に地域と 連携した取組を進めています

流域管理の推進

地域における適切な森林整備や森林・林業・木材産業の活性化を図るためには、所有者が別々に事業や管理を行うのではなく、流域を単位として民有林と国有林が協調しつつ、計画をたてて森林づくりを進めていくことが重要です。

このため、民有林行政を担当する北海道や市町村と連携しながら、流域における課題やニーズの的確な把握や森林計画等の策定のための意見調整などを進めています。

森林の現況

市町村	区域面積 (km ²)	森林面積(ha)			国有林率 (%)	備 考
		国有林	民有林	計		
遠軽町	1,332.45	98,738	18,350	117,088	84	
湧別町	505.79	6,214	21,458	27,672	22	
計	1,838.24	104,952	39,808	144,760	73	

網走西部森林計画区のうち網走西部森林管理署管内のみ

区域面積は「令和7年北海道統計書」、森林面積は「令和6年度北海道林業統計」による。

森林面積(国有林)は、森林管理局所管国有林及びその他国有林である。

森林認証の取組

平成19年12月に「**緑の循環認証会議(SGEC)森林認証**」を当署と西紋別支署管内の国有林全域で取得、平成25年12月に網走東部流域の国有林全域で取得し、オホーツク総合振興局管内の国有林全てが認証林となりました。オホーツク地域では、民有林・国有林が一体となった森林認証を進めており、森林面積全体の約8割が森林認証を取得しています。

一方、認証製品の大きな市場である大都市での知名度が低く、長らく出荷量が伸び悩んでいましたが、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の関連施設において認証材が利用されたことにより認知度も上がり、今後は出荷量が伸びることが期待されています。



網走西部森林管理署管内の木材は全てFM認証材です。

「SGEC(Sustainable Green Ecosystem Council:緑の循環認証会議)森林認証」

「FM(Forest Management:森林管理)認証材」

オホーツク流域の**民有林行政と** **連携した取組**を進めています



民有林と連携した取組

持続的な森林経営は地域経済の振興だけでなく、生物多様性の保全や流域の土壌及び水資源の保全に寄与しており、今後益々重要となっています。

オホーツク流域では森林所有者・行政の垣根を越えた取組を進めており、技術的支援を通じて地域の取組に協力しています。



民国技術交流検討会(令和7年10月)



造林作業の省力化に関する研修(令和7年9月)



地方公共団体の思いを国有林野経営に・・・

オホーツク地域の森林・林業・木材産業の諸課題に対応していくためには、流域を管轄する市町村との連携が不可欠です。森林管理署においては関係する市町村と「市町村連絡会議」を開催するとともに、北海道森林管理局を中心に「国有林野所在市町村長有志協議会」を開催し、地域との連携を進めています。



遠軽・湧別町連絡会議の様子(令和8年3月)



北見地区国有林野所在市町村長有志協議会(令和7年11月)

「国民の森林」にふさわしい 開かれた管理経営を目指します

地元に愛される国有林を目指して

林野庁では、地域の民間団体や地方公共団体などが国有林を利用し自主的な森林づくり活動や様々な体験活動を計画的に行えるよう、協定（協定締結による国民参加の森林づくり）を結び活動を行っています。

網走西部森林管理署においても、この協定を活用しながら地元の方々が国有林で活動出来るよう積極的に取組むと共に、活動へのサポートやアドバイスをを行っています。

○ 活動名：ひらやま登山道整備及び高山植物パトロール活動等

遠軽町白滝地区にある“ひらやま”は、地元はもとより道内外からも多くの登山者が訪れる地元の貴重な観光資源の一つです。

（一社）えんがる観光協会は、網走西部森林管理署と協定を締結し、快適な登山環境の維持とともに、貴重な高山植物を守り次世代に引き継いでいくことを目的として、登山道整備及び高山植物パトロール活動を行っています。



“ひらやま”に咲くコマクサ

○ 活動名：白滝ジオパーク黒曜石の森

遠軽町白滝地区は日本有数の黒曜石産地であり、その希少性から日本ジオパークにも選ばれています。

白滝ジオパーク推進協議会は、網走西部森林管理署と協定を締結し、ジオパークの理念に基づき、この貴重な地域遺産を保全するとともに、教育やツーリズムに活用し地域の振興を図ることを目的として、ジオサイトの環境整備や保全活動を行っています。



黒曜石の露頭（八号の沢）

「国民の森林」にふさわしい 開かれた管理経営を目指します

森林に学び森林に遊ぶ

網走西部森林管理署では、将来を担う世代の子どもたちと森林教室などで交流を深め、森林・林業の普及活動を進めています。



森林の危険生物について学習(令和7年8月)
(湧別町芭露学園)



リーフアート作成体験(令和7年7月)
(環境広場さっぽろ2025)

登山ルートのご案内

山岳名	概要説明等
ひらやま	標高は1,771m。毎年6月の第4週日曜日が山開き。 登山コースは、夫婦の滝・行雲の滝、冷涼の滝を見ながら登山ができ、山頂からは、大雪山系やニセイカウシュッペ山等の山々が眺望できます。
天狗岳	標高は1,553m。 登山コースは旧北大雪スキー場から往復3時間程度、上級コースになりますがひらやまに縦走することもできます。
薬師山	標高は374m。 登山コースは周回となっており約1時間程度、登山道沿いには霊場八十八ヶ所があります。山頂からは遠くオホーツク海を望むことができます。



ひらやまから大雪山を望む



ひらやま山頂 1,771m



秋の薬師山登山道

令和8年度の取組

地域林業の活性化に向けて

○森林整備推進協定に係る取組

森林の有する多面的な機能や林業の持続的な発展のため、民有林と国有林で連携した取組が重要になっています。

民国連携して地域の森林整備を進めるため共同施業団地の設定の検討を進めると共に、相互間での勉強会等を行います。



勉強会の様子

○育苗期間短縮苗の植栽試験

低コスト・省力化に向けた取組として、育苗期間短縮苗の植栽試験地のモニタリングをします。

緩効性肥料の施肥により育苗期間を2年に短縮したトドマツコンテナ苗(通常育苗に4年程度)を植栽。また比較のため、育種区や規格等の異なる条件で設定し、残存率や生育状況等の調査を引き続き行います。



トドマツコンテナ苗

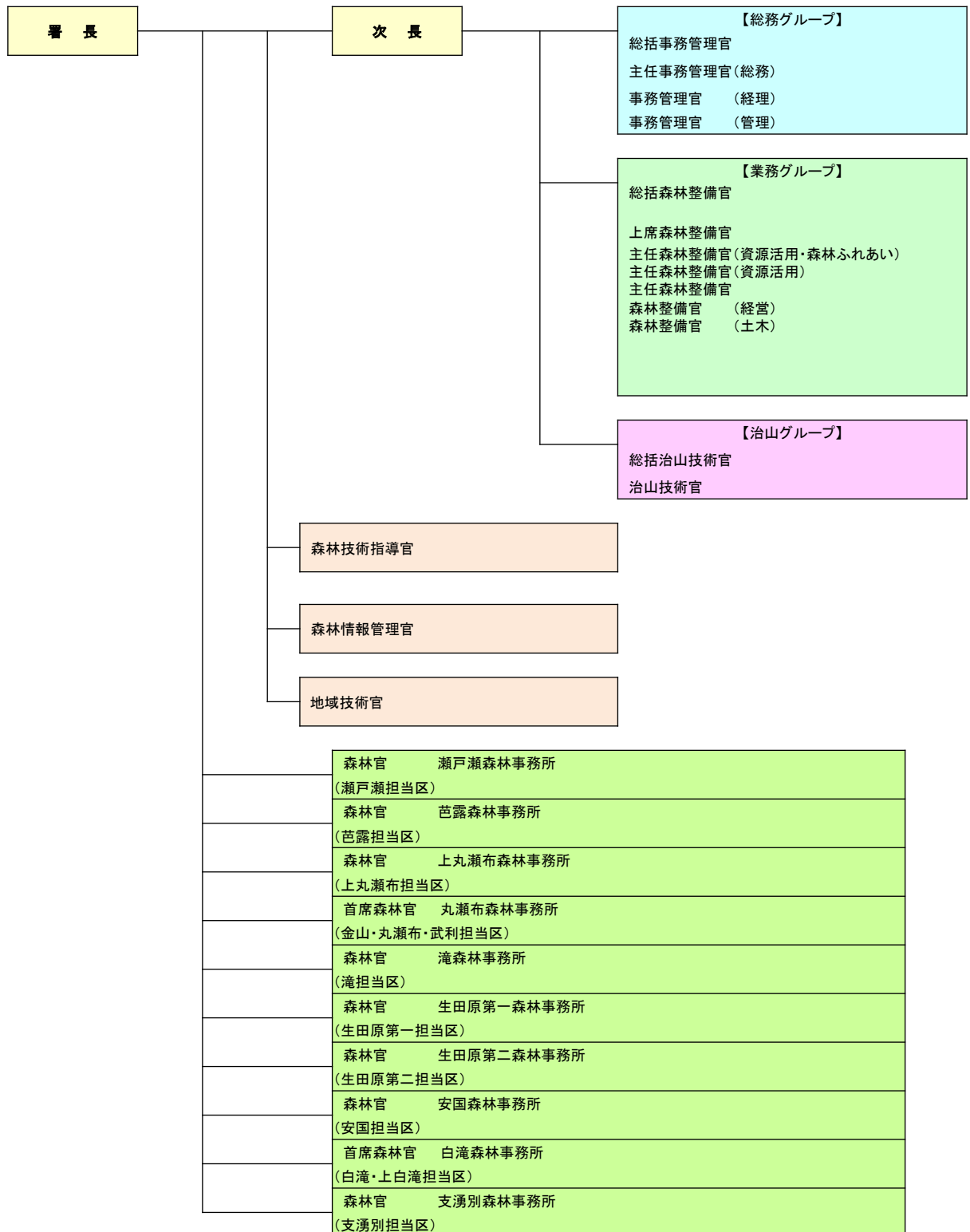
令和8年度 主要事業量

区 分		単位	令和8年度	備 考
販売量	立木販売	m ³	36,000	分収林含む
	製品販売	m ³	107,800	
造 林	更 新	ha	88.63	
	保 育	ha	132.33	
林 道	新 設	m	0	
治山事業		百万円	140	溪間工2箇所 山腹工1箇所 流域調査1件

注1:造林の更新は、新植、補植の合計である。

注2:造林の保育は、下刈、根踏、除伐、つる切の合計である。

網走西部森林管理署 組織図



お問い合わせ・みどりの相談窓口



くらしを育む・国有林

網走西部森林管理署

所在地 〒099-0404

紋別郡遠軽町大通北4丁目1-1

電話:0158-42-2165

IP電話:050-3160-5760

・瀬戸瀬森林事務所

・芭露森林事務所

所在地 〒099-0404 紋別郡遠軽町大通北4丁目1-1

電話:0158-49-2100/2325

・丸瀬布森林事務所(金山・丸瀬布・武利)

・上丸瀬布森林事務所

・滝森林事務所

・白滝森林事務所(白滝・上白滝)

・支湧別森林事務所

所在地 〒099-0206 紋別郡遠軽町丸瀬布水谷町

電話:0158-47-2311

・生田原第一森林事務所

・生田原第二森林事務所

・安国森林事務所

所在地 〒099-0701 紋別郡遠軽町生田原143-3

電話:0158-45-2111



SGEC/31-21-1043



PEFC/31-21-1043